



popo

2012 年
第 4 号

ポポ

社会福祉法人 蒼生会 広報委員会発行

カシオペア祭

9 月 15 日、老人ホームモモで「カシオペア祭」が開かれました。

カシオペア祭は、高齢者施設と二つの保育施設が一体となつて作り上げていくお祭り、昨年に引き続き「世代間交流」のテーマの下、小さな子どもたち、高齢者の皆さま、地域の皆さまの参加も増え、大盛況となりました。

ゲームコーナーや喫茶室、写真館、人形劇、模擬店、入居者の方々の手作り作品も展示され、ステージでは



楠の木学園の生徒さんによる迫力ある和太鼓演奏が行われました。喫茶室で寛ぐ方、ご自分の手作り品をご家族に嬉しそうに説明している方、ゲームコーナーではしゃぐ子どもたちの笑い声、ステージ



で大道芸に挑戦する姿・・・

どの催しものコーナーにも笑顔があり、わずかな時間ですが、楽しいひととき

をたくさんの方々と共に共有できたことを本当に嬉しく感じました。

この「一日」を創り上げる準備は 4 月から始まり、実行委員が毎月の話し合いを経て、皆さまに楽しんでいただくことを目標に当日を迎えました。そして、その目標を達成させていただけたことは、参加して楽しんで下さった方々、準備に力を貸してくれた全ての職員のおかげと

感謝しております。

ます。本当にありがとうございます。

来年度

は、新施設

特別養護老

人ホーム「ピノ」



が加わり、四施設一体となるカシオペア祭となります。

また来年もたくさんの方々に楽しんでいただきたいと思います。

しい一日を過ごすに、蒼生会としての職員間のつながりを更に強めていきたいと思



実行委員長 茂木美千子

新しい施設について



Community Home Pino



ピノの建築が始まりました。

猛暑の8月30日、新しい高齢者施設ピノの地鎮祭が執り行われました。東北震災の影響もあって建設コストは当初の予想よりも大幅に値上がりしてしまい、初めてVE（バリュー・エンジニアリング）なる交渉を臨みました。その結果、何とか質を下げることなく建築を始める事ができました。おかげさまで建築について大変勉強させて頂きました。上のイラストは完成予想図です。多少の違いはあるかと思いますが凡そこのようなイメージになると思います。

庭園はこの施設の大きな特長です。四季折々の花々で、利用者と地域みなさんが工夫しながら庭園を華やかにして頂くのが理想です。そして週末には様々な屋外イベントが開催されるような施設でありたいと考えています。完成までには、近隣みなさまには大変ご迷惑おかけすることと存じますが、しばらくの間ご勘弁頂きますようお願い申し上げます。

今期中の完成を目指して頑張ります。

ピノの正式名称が決定しました。

新しい高齢者施設ピノの正式名称が先の理事会で承認されました。
コミュニティホーム ピノ

（地域密着型小規模特別養護老人ホーム及び短期入所の名称）

コミュニティセンター ピノ

（地域密着型認知症対応通所介護の名称）

地域密着というイメージを保ちつつ、どこか広域型大規模施設と違いがあるのかなといったところをこの名前に感じて頂ければ幸いです。

理事長 大久保 祐次



建築が始まったピノ

保育園モモより

夏のおまつり

保育園モモでは、7月7日の七夕の日に夏のおまつりをしています。

季節のおまつりはその日だけではなく、おまつりに向けて、保育室の季節のテーブルが変化し、保育でうたわれる唄やお話が季節のものに変化していき、少しずつ心身ともに準備しながら当日を迎えます。夏のおまつりでは、5月の下旬から、提灯作りを始めていきます。子どもたちが描いたぬらし絵にろうソクを入れて燃えないようにサラダ油を塗っておき、それを筒状にします。年齢に応じて、保育士が手伝ったり、子ども自身が作っていきます。夏のおまつりを少しずつ心待ちにしながら生活していきます。

おまつりがはじまると提灯のろうソクに火をつけて、笹のまわりを提灯で飾っていきます。提灯の運び方ひとつにも子どもそれぞれの個性が豊かに表現される瞬間でもあります。

午後はケアハウスの方々を招待し一緒におまんじゅうを食べます。小麦まんじゅうは夏のおまつりの行事食です。子どもたちは提灯飾りのあとは、

小麦粉をこねて、おまんじゅうを作るのだと、毎年繰り返し返されるおまつりの中で覚えていきます。

年少の時はいびつだったおまんじゅうも年長児になるころはきれいな丸いおまんじゅうを作れるようになります。

おまんじゅうを食べたあとには、ケアハウスの方々と年長児が会場へ行き、あかりの灯った提灯をみます。午前中に自分たちが体験したときとはまた異なった雰囲気の中で、全員の提灯にあかりが灯ります。少し薄暗くなった室内であかりがゆらゆら揺れているのを見ると、ざわざわしていた心を静めてくれます。そんな七夕の過ごし方をモモではしています。

保育園モモ 神田 幸枝

保育園ピノ / 泥遊び

保育園ピノでは、夏にテラスの泥プールで泥遊びをしています。1歳〜5歳児組の子ども達がそれぞれ組ごとに曜日を決めて、泥遊びを楽しんでいます。

泥遊びは、プールや水遊びと並んで、子ども達の大好きな夏の遊びです。生まれて初めて泥に触れる体験をする子どもも多く、最初は泥プールに入った瞬間、泣いてしまう子ども達もいました。汚れる事が苦手で、恐る恐る泥に触る



子もいますが、時間が経つにつれて泥の感触に興味を持ち、笑顔が見られるようになります。回数を重ねる度に、手、

足、次にお腹、顔と泥だらけになる子が増え、そのうち座りこんだり、寝ころんだり、よりダイナミックに遊ぶようになっていきます。「泥んこって楽しい!」と、感じ取った子ども達の表情はとも生き生きとなり、動きも

活発になります。

泥は自然の素材なので、毎日感触や硬さが違ってきます。田んぼのような泥水の中で泳げる日もあれば、干からびた土がまるでチョコレートのような硬い日もあります。粘土の様な手触りで、お山やお団子を作って遊ぶ事もできます。子ども達は毎回違う感触を発見し、遊びを創造しています。遊んだ後の片付けは大変ですが、興味を持って手伝ってくれる子ども達もいます。「ここにもあった!」と、泥に埋まったシャベルやカップを見つけ出し、まるで宝探しのようになっています。真つ黒になった玩具を洗って、ピカピカにする子ども達もいます。

泥遊びの日は、子ども達の様子を写真にして掲示しています。写真を通して、普段見られない日中の子ども達の様子や、日々成長して遊んでいる子ども達の姿を保護者に伝える事ができ、とても好評です。

泥遊びは、子どもの頃にしかできない貴重な体験の一つです。泥んこになった洋服を快く洗濯してくださる保護者の皆さまに感謝し、ご協力をいただきながら、これからも子ども達と一緒に思う存分泥遊びを楽しみたいと思います。

保育園ピノ 山崎 瑞絵

お神輿



今回のお神輿は天気にも恵まれ、快晴の中で行なわれました。

施設内でも、担ぎ手の威勢のいい声が聞こえ、その声を聞いて、利用者さんも

「何か、お祭りかしらね」と話したり、お雛子の太鼓の音を聞いて「お神輿が来たわね」と楽しみに待っている方もいらっしやいました。

一階では、子ども達のはっぴ姿を見て「かわいいわね」と、掛け声に合わせて、皆さんで手拍子されておりました。

また、お神輿が前を通ると皆さん拍手、声援を送る方もおり、なかには御家族がお神輿を担いでいる方もいて、「あんな姿初めて見たわ」と感動されている利用者さんもありました。

担ぎ手の方が休憩中には、利用者さんの前で、獅子舞を踊ってください皆さん大喜びでした。

外には出られなかった利用者さんは、

窓越しに獅子舞を見学することができ、

大いに楽しむことができた。担ぎ手の方も、気軽に

に利用者さんに話しかけてくれたり、短い時間ではありましたが交流する場が出来て良かったと思います。

来年もまた、お神輿と担ぎ手さんの勇ましい姿で、利用者さんに元気を分けてください。

特別養護老人ホーム 持丸 聖弥



特別養護老人ホーム 持丸 聖弥



敬老会

平成24年9月17日敬老の日に、特養及びケアハウスにて『鯉ミニ解体ショー』を実施しました。普段調理の様子を見ていただく機会はないため、魚をさばく様子を「じい」っと見られていらっしやる方もいました。「新鮮な魚を食べられて嬉しい」、「美味しかった」との声をいただきました。入所者の皆様が、いつまでもお元気であられますよう祈念いたします。

佐藤 まどか



ご利用者の感想…後日、解体ショーの感想を各フロアのご利用者にと伺っています。しっかりと覚えていらっしやる方も多く、とても印象に残っているようでした。解体ショーは3階フロアで実施し、全ご利用者に3階に集ま

つてご覧頂いております。

感想を尋ねると、笑顔で答えて下さる方が多く「面白かった」「また見たい」「器用だな」と思った「鯉をいっぱい食べられて美味しかった」「さばいている様子がよく見えた」などの感想を頂きました。中には、「目の前で見られなかったので残念だった」との意見も頂戴しました。今回は、各テーブルで実演を見て頂けなかった為、次回は、より多くのご利用者楽しんで頂けるように、準備し実演できればと思っております。

フロアの職員からも、「普段あまりないイベントなので、ご利用者が楽しんでるのがよくわかった」との感想が聞かれました。ご利用者にとっても楽しんで頂けたのが、職員一同、とても嬉しく感じております。今後も、ご利用者に楽しんで参加して頂けるイベントを企画していければと思っております。

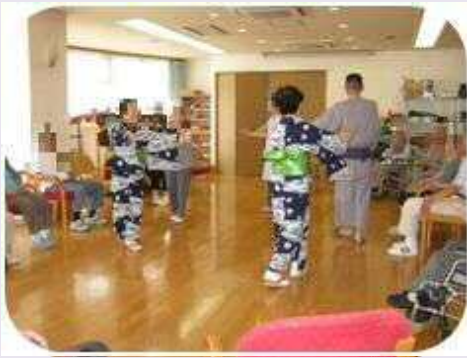
特別養護老人ホームモモ 3階リーダー 小林 美和



デイサービスモモ

夏祭り

デイサービスモモでは、毎年8月の上旬に恒例の夏祭りを行っています。夏祭りは盆踊りから始まります。皆さんおなじみ炭坑節から相模原音頭や東京音頭など、音楽が流れ出すと皆さん自然と体が動き出すようです。地域のボランティアの方々も毎日素敵な浴衣を着て踊りを披露しに来て下さいます。踊りが苦手な利用者方もボランティアさんから踊りを教えていただいたり、踊りを見たりして楽しんでいきます。盆踊りは地域の方との交流の場としても大切な行事の一つとなっています。



盆踊りが終わると皆さんが楽しみにしている「かき氷」の時間です。利用者の方の目の前で、デイサービス職員がかき氷を作ります。氷の上にかけるシロップは利用者の方にお好みの味を選んでいただきます。定番の味イチゴやメロン、その他にもカルピスぶどう味などもあり、皆さん選ぶのにとっても悩んでしまうようです。

「美味しかった!」「懐かしい味だわ」など喜んで頂けている声が多く聞かれました。

猛暑日が続く中、ほんのひとときですが、夏らしい楽しさと美味しさを味わうことができました。これからも四季折々の行事を楽しんでいただきたいと思います。

デイサービスセンターモモ

荒井 あづさ

海外研修

オーストラリア



今回特別養護老人ホームモモから、小林美和、碓谷篤志が海外研修に参加させて頂きました。

日程は6月26日～7月1日まで、場所はオーストラリアです。

オーストラリアは日本と季節が逆で行った時期は、一番寒い時期と言われていましたが、着いてみると、日本の真冬と比べると、全く寒くもなく、日本でいう秋のような気温で、過ごしやすかったです。

研修内容としては、オーストラリアにある施設見学と、国際会議に出席させて頂きました。

施設の見学では、当たり前ですが、国が違いうえ、考え方や、高齢者に対する制度など、日本と異なっている

事も多く、大変羨ましい感じもしました。



オーストラリアは、土地が広く、建物の中も広かったことが、とても印象に残っています。

講師の方々から多くのためになる話を聞き、自分自身にとって有意義な研修でした。

国際会議では、壇上に立たれた方の発表を聞かせていただき、高齢者に対する考えや、対応の仕方など、様々な話を聞く事ができ、とても参考になりました。

ただ、初めて同時通訳というものを体験させていただきましたが、英語と、日本語が同時に聞こえてくるため、頭の中がちょっと混乱する感じもありました。

海外研修に最初は不安なことも多かったのですが、行つて帰つてみると、大変貴重な経験をさせていただき、自分自身の力になっていると思います。今回の研修に参加できてとても良かったです。

特別養護老人ホーム

小林美和・碓谷篤志



特別養護老人ホーム 風船バレー大会

6月16日に、特別養護老人ホーム中の郷にて、風船バレー大会が開催されました。

中の郷・ひまわり・モモの3つの施設合同での開催は、年に2回行われてきました。利用者の交流を深め、社会性の向上を目的としたこの風船バレー大会は、毎回白熱した戦いが繰り広げられています。

今年はモモが優勝する健闘ぶりを見せ、参加された利用者の方は、嬉しそうな表情でメダルと賞状を手になされておりました。



普段、施設では見られないような豊かな表情が見られ、とてもいい刺激になったのではないかと思います。



今回は、ここモモの施設内で、3施設合同の運動会が秋に予定されています。職員も利用者さんが楽しめるように試行錯誤中です。

特別養護老人ホーム

玉木 伸大

ケアハウス例会



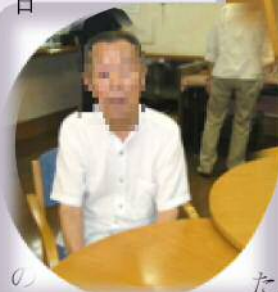
ケアハウスでは、毎月1回定例行事として

入居者の皆様が集まる例会を行います。(誕生日

会を兼ねています。)公式行事と位置付けていますが、出席は強要していません。外出者以外はほぼ全員が参加して頂いています。

日頃、入居者同士の交流はお食事の時に顔を合わせるくらいとなるので、和やかな雰囲気で行なわれる

例会は、歓談



の場となり、お互いを知る良い機会にもなっています。

例会では、ケーキと紅茶をいただきます。

ら、来月の施設内行事の案内や、お誕生月の方のご紹介、お花の贈呈をしています。

お誕生月の方には事前にインタビューをさせて頂き、例会で発表します。インタビューをしていて驚いたことは、皆様、生け花やお茶、写真やダンスが得意だったり、裁縫や水彩画、折り紙などと手先が器用であったり、全員が様々な部門のスペシャリストでした。特技や趣味を活かして施設内に絵を飾って頂いたり、施設に飾る花を生けるお手伝いをお願いしたり、活躍して頂いています。

この先も、皆さんのお誕生日をお祝いさせて頂くとともに、皆さんの事をもっとたくさん知って頂けたらと思います。

ケアハウス モモ 大谷 真美



世代間交流

〜2年目を迎えて〜

昨年度はまず職員が「互いを知ること」から始めたいと考えて、「職員交流」の機会を作りました。同じ福祉施設でありながら互いの施設内に入ることも新鮮だったことを思い出します。互いの仕事、生活の場を知ることができ、その手応えや反省を基に「今年はずっと、交流の回数を多くしたい」と委員が意欲的に計画を立てました。

その一つ目は交流する対象児の枠を4〜5歳児から0歳児〜5歳児へと広げました。

なんと言つても、施設内に入るとお年寄りの方々が子ども達の姿を見た途端に声をかけ、笑顔を見せてくれたことが一番嬉しいことです。子ども達は握手をしたり、「何歳？」と聞かれたり、毎回どんなやり取りが出来るか楽しみにしています。「おばあちゃんとタッチした」「おじいちゃんと一緒に体操したよ」「しりとりにしたんだよ」と子ども達は家庭でも話題にしているようです。子どもが話すことで保護者の方々も交流の様子を知り、喜んでいる声も保育園に届いています。



5月にはケアハウスの方々が初めて保育園ピノへ行き、一緒に遊んで笑顔が溢れるよい交流が来ました。

二つ目は秋に外部から講師を招いての企画です。子どもとお年寄り、どんな交流が出来るだろうと手探りで始め、少しずつ手応えを感じてきたところですが「気軽に交流する」という大きな目標に向けてヒントをもらいたいと思ひプロのお力を借りることになりました。

交流はほんの少しの時間ではあります、機会を重ねるうちに子どもとお年寄りが親しみを持って接する姿が見られるようになりました。

世代間交流委員会 委員長

保育園モモ 石山佳子

避難訓練

保育園
ピノ

避難訓練

は毎月一回、
全クラスが

参加し実施しています。



地震訓練と火災訓練を交互に行ない色々な場面を想定して避難場所を変えたり、時間も日中活動時、早朝・延長、おやつの時間など様々な時間帯が経験できるように計画されています。

訓練開始の放送や「火事だ!」という保育士の声に始めは不安そうな表情を見せていた子ども達も、何度も繰り返し練習する事で、普段の保育と違う雰囲気緊張感を持ちつつも次第に慣れて保育士の誘導に従うことが出来るようになってきました。

保育士はヘルメットを被り、地震訓練時は子ども達も防災頭巾を被ります。暑い時期でも職員の真剣さが伝わっているのか、子ども達も避難場所ですぐに静かになっています。

特養
モモ

今後は園内のみの訓練に留まらず、広域避難場所へ歩いて避難をする予定もあります。突然の災害時にも冷静に行動し、保護者の元へお返しできるように職員一同で連携をとり、子ども達の生命を守り、より安全に避難できるように努めていきます。

保育園ピノ 田中 絵美

高齢者施設の火災避難訓練は、毎年6月、12月の年2回、日中想定と夜間想定に分けて1回ずつ実施しています。各職員も毎年訓練を重ね、特養入所者、デイサービス利用者、ケアハウス入居者の避難時間が年々短縮されてきています。今後も想定出来る範囲を訓練に盛り込み、安全、的確な訓練を実施していきたいと思っています。

また、昨年発生した大震災を教訓に、高齢者施設、保育施設が震災時に協力体制が築けるよう、法人本部、モモ、ピノ各施設合同の「防災対策委員会」を本年度より立ち上げ、マニュアルの整備、合同訓練の実施体制を整えています。万一の場合に備えていきたいと思っています。

特別養護老人ホームモモ

渡辺 孝

居宅支援事業所 モモです！

今回は認知症についてつづきです。

平成 24 年 8 月 24 日の新聞記事に、「認知症の高齢者が 300 万人を超えた」事が、厚生労働省の推計で分かりました。平成 14 年から 10 年で倍増し、65 歳以上人口に占める割合は 10 % となり 10 人に 1 人が認知症です。従来の予想を上回って急増しており、厚生労働省は来年度から 5 カ年計画で新たな認知症対策に乗り出すそうです。

ここで、基本に立ち返り認知症について簡単に説明しますと、大きく 3 種類に分類されます。①アルツハイマー型認知症…脳の神経細胞が減り委縮してしまうタイプ。②脳血管性認知症…脳の血管が詰まる、破れるなどしてその部分の脳の働きが悪くなるタイプ。③その他の認知症…レビー小体（異常な構造物）が脳皮質にたまり「レビー小体型認知症」タイプなどに分けられます。

今後、団塊の世代数が爆発的に多くなり、予想以上に増加する事も考えられます。医学の進歩により新薬の開発も進められていますが、なかなか難しい事が現状です。しかし、医療保険制度や介護保険制度により、以前と比べ認知症の方に対する関わりや地域での理解も深まり、一つの病気として捉え、社会全体で支えて行くことが出来るようになりました。独りで悩まずに、主治医、介護保険サービスを上手に利用し自立した生活を送れる様にしましょう。

つづきケアマネでした。

カシオペア祭にご寄付頂いた方々

様	様	様
様	様	様
様	様	様
様	様	様
様	様	様
様	様	様
様	様	様
様	様	様
様	様	様
様	様	様
様	様	様

ご協力ありがとうございました。

デイサービスモモ利用者作品



卵の殻で作った魚たちとお花紙で作ったひまわり。夏らしい壁面アートです。



恒例の手づくりカレンダー。

個人作品を常時廊下に展示しています。

個性の光る素敵な作品ばかりです。

社会福祉法人蒼生会

〒252-0301 相模原市南区鶴野森1丁目22番17号

●特別養護老人ホーム モモ TEL 042-767-8030 ●居宅サービスセンター モモ TEL 042-767-8278
●ショートステイ モモ TEL 042-767-8030 ●デイサービスセンター モモ TEL 042-767-8280
●ケアハウス モモ TEL 042-767-8281 FAX 042-767-8032 (共通)

〒252-0301 相模原市南区鶴野森1丁目21番4号

●保育園 モモ TEL 042-767-8470 FAX 042-767-8475

〒252-0344 相模原市南区古淵1丁目8番1号

●保育園 ピノ TEL 042-750-0065 FAX 042-750-0068

2012年10月1日・500部発行 発行責任者：モモ広報部